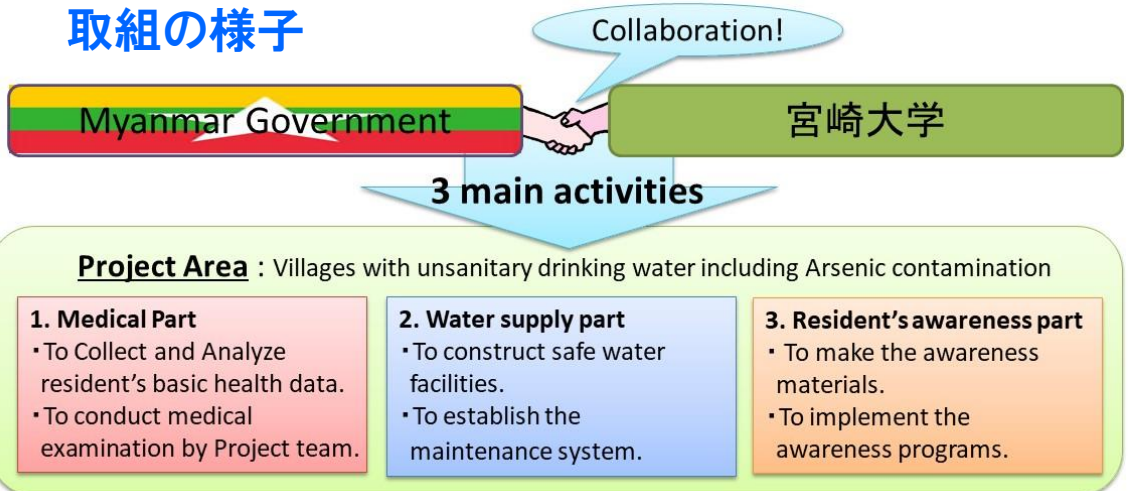


部局名 国際連携センター

テーマ ミャンマー国ヒ素汚染地域における健康リスク低減のための水供給事業

取組の様子



宮崎大学型ヒ素除去装置



学校での啓発風景
教育学部の学生がインターンとして現地啓発活動に参加

特色ある取組

ミャンマー国では、イラワジ川流域を中心に、農村部の主要な飲料水源である地下水がヒ素に汚染されており、汚染地域の住民は飲料水の健康リスクを認識せずに日常的に飲用している。汚染被害の実態も正確にはつかめておらず、対策は散発的に取られているが根本的な解決には至っておらず、対策方法の確立は急務となっている。

宮崎大学は、県内で起きた鉱山公害の支援のため、1976年から住民の検診を継続しており、慢性ヒ素中毒症の診断方法など実績を伴った経験を有している。また、工学部を中心とした研究グループは1996年からバングラデシュやインド、ネパールなどで、汚染状況調査や対策事業を展開しており、現地の材料を使ったヒ素除去方法などのノウハウを得ている。

これらの実績を元に2013年からミャンマーでの活動を続けており、特に2015年からはJICAから草の根技術協力事業（パートナー型）の支援を受け、ミャンマー国保健スポーツ省医学研究局をカウンターパートとして活動を行っている。

宮崎大学では、国際連携センターの基に学際的な研究グループを組織し、医学部、工学部、農学部、教育学部、地域資源創生学部など、それぞれの専門性を活かし国際協力に資する活動を行っている。

活動は、主に3つのパートで行っており、1. 医療パート、2. 水供給パート、3. 住民啓発パートとなっており、1. では正確な情報の入手方法またその分析方法や住民健診の実施などの指導を行っており、2. では安全な飲料水供給のための水処理システム作りやその維持管理方法の指導、3. では、住民の衛生教育や安全な飲料水の重要さなどを習得するプログラムを実施している。このように医療関係者、工学系エンジニア、学校や住民など様々なステークホルダーに対して、宮崎大学の様々な学部の専門家が参加し、総合的に活動を実施している。



医療健診風景 宮崎大学医学部の教授が現地の医師に診断方法を伝授



医療健診風景2 神経科の先生が現地の若手医師に指導中



井戸水のサンプリング風景 サンプリング方法やナンバリング等データ入手方法を伝授